

【申請書類作成の手引き】

■助成金交付申請書の入力についての注意点

- 枠内は文章量に応じて枠の幅が自動的に広がり改ページする設定になっているので、文字の大きさと行間は変更しないでください。記述内容は簡潔にまとめてください。

(第1号様式・第9関係)

令和3(2021)年度 第1期 東京芸術文化創造発信助成 カテゴリー I 単年助成 助成金交付申請書 (団体申請)

公益財団法人東京都歴史文化財団 理事長 殿

申請団体名: *団体の正式名称を省略せずに記載してください。

団体所在地: 東京都〇〇区〇〇〇 *-*-*-*
〇〇〇〇ビル ***号室

*所在地が東京都内がない場合は申請できません。

*住所は、マンション名、ビル名、部屋番号、〇〇様方、
までを省略せずに記載してください。

代表者役職名:

*代表者の役職名は、定款・規約等の記載と齟齬がないこと

代表者氏名: 印

*法人の場合は法人代表者印、任意団体の場合は団体代表者の個人印 ↑

*今後の全ての助成手続きは、この押印と同一のものを使用させていただきます。

下記の事業について、東京芸術文化創造発信助成金交付要綱(単年助成)に基づき助成金の交付を申請します。

なお、申請関係書類に記載した個人情報は、公募ガイドライン「9. 個人情報の取扱い」に記載されている内容を承諾した上で提供します。

フリガナ	
申請事業名 <small>*確定していない場合は末尾に(仮)と付記</small>	*この枠は「団体の名称」ではなく、助成を申請する「事業の名称」を記載する枠です。 *事業名称は、後から変更が生じないようにしてください。確定していない場合は末尾に「(仮)」と付記してください。
活動分野 <small>(上段の5つの分野から複数を選択可。又は下段の「複合」を選択)</small>	<input type="checkbox"/> 音楽 <input checked="" type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> 美術・映像 <input type="checkbox"/> 伝統芸能 *該当する <input type="checkbox"/> を <input checked="" type="checkbox"/> に変えるか、又は <input checked="" type="checkbox"/> を記入してください。 *5つの分野から該当するものを選択してください。複数の分野を選択して構いません。どの分野にも該当しない場合や、核となる分野を特定できない活動の場合に、下段の「複合」を選択してください。 <hr/> <input type="checkbox"/> 複合 (核となる分野を特定できない芸術活動)
実施場所	<input type="checkbox"/> 都内 <input checked="" type="checkbox"/> 海外 <input type="checkbox"/> 都内及び海外 *該当する <input type="checkbox"/> をひとつだけ選び、 <input checked="" type="checkbox"/> に変えるか、又は <input checked="" type="checkbox"/> を記入してください。
事業内容	<input type="checkbox"/> 都内での芸術創造活動 <input checked="" type="checkbox"/> 国際的な芸術交流活動 *該当する <input type="checkbox"/> をひとつだけ選び、 <input checked="" type="checkbox"/> に変えるか、又は <input checked="" type="checkbox"/> を記入してください。
助成申請額 <small>*半角数字。桁区切りのカンマを入れる</small>	*申請書類で助成申請額を記載する箇所は、この枠内と、提出書類「収支予算書」内の「当助成申請額」の2か所です(両方に同一の額を記載してください)。 円 (「収支予算書」記載の「当助成申請額」)

*「事業内容」の枠で「都内での芸術創造活動」を選択した場合は、助成申請額の上限は助成対象経費の 2分の1以内 で、かつ200万円以内 です。

「国際的な芸術交流活動」を選択した場合は、助成申請額の上限は助成対象経費の 2分の1以内 で、かつ400万円以内 です。

実施期間 *準備期間・移動日は含めない	開始日 (西暦) *半角数字	2021	年	10	月	24	日	終了日 (西暦) *半角数字	2021	年	10	月	24	日
------------------------	----------------------	------	---	----	---	----	---	----------------------	------	---	----	---	----	---

*公演・展示等の場合は、初日から最終日までを記載してください。準備期間（リハーサル等）は含めず、断続的に実施する場合は全体の開始日と終了日を記載してください。

*申請する事業の主たる目的の中に、記録物（展示の図録等）や複製販売物（CD、DVD 及び書籍等）の製作が含まれている場合は、申請者がそれらの製作を完了させ、一般に広く公開する日を実施期間に含めてください。

*申請する事業をオンライン上で公開する場合は、配信終了日を上記の期間内としてください。

*海外での事業の場合は、事業の初日から事業の最終日までを記載してください（出国日と帰国日ではありません）。

*助成対象期間は、開始日2021年7月1日以降、終了日2022年6月30日まで。

実施会場 *複数回実施する場合は各回の日程・場所を記載	○○○劇場		所在地 (区市町村名) (海外の場合は国・都市名)	ニューヨーク/米国 <他の記載例> 港区、立川市 ロンドン/英国 パリ/フランス	
実施回数 又は日数	○回/○日	入場者又は参加者数	名		
主催・共催・助成・提携・協賛・後援等とその役割 *予定・申請中の場合も必ず記載してください。	名義	団体名・機関名	役割		
	<p>*「役割」の枠内には、当該事業への関わり方（企画、制作、財務責任、会場提供、広報協力、協賛金提供、等）を具体的に記載してください。</p> <p>*アーツカウンシル東京以外の助成団体等による助成金・補助金、企業協賛金等に関しては、この枠内と、提出書類「収支予算書」内の「他の助成金・補助金」の2か所に記載してください。</p>				
	主催	<p>特定非営利活動法人○○○</p> <p>*主催者名は必ず記載してください。</p> <p>*都内での活動の場合は、申請団体名を記載してください。</p> <p>*海外で実施する活動の場合は、現地の主催者名を記載してください。（ただし、申請者が自ら主催して行う海外事業の場合は、申請団体名を記載してください。）</p> <p>*共催等、主催者が複数存在する場合は、必ず全ての主催者名を記載してください。</p>			
	助成	○○○基金（申請中）	*団体名の後ろに、（申請中）、（申請予定）、（決定）等を付記してください。	助成金	
	提携	○○文化財団	会場費の減免		
後援	○○○○	後援名義使用			

※以下の枠内は文章量に応じて枠の幅が自動的に広がり改ページする設定になっているので、文字の大きさと行間は変更しないでください。記述内容は簡潔にまとめてください。

※枠内には文章のみを記載してください。図や写真は貼り付けしないでください。

***企画書等の補足資料を提出する場合でも「別紙参照」とせず、必ず記載してください。**

1. 事業のスケジュール

[企画立案、各種契約、会場予約、広報活動、チケット発売、稽古、設営等、種々の準備段階から、事業実施、実施後の実績報告書の作成まで、それぞれの日程と作業内容を具体的に記載してください。]

2020年 12月 ○○カンパニーと現地会場下見及び打合せ、ファシリテーター、アシスタントなど渡航メンバー決定
2021年 7月 出演者、スタッフ契約。現地広報開始
8月 チケット発売
演出家、制作、技術スタッフ渡航の上現地スタッフと打合せ
10月15日 現地入り。リハーサル
10月18日 劇場入り。仕込み
10月24日 公演実施(計○回)、ワークショップ実施
10月26日 帰国
12月 報告書作成

2. 事業の具体的内容

[プログラム内容・出演者・スタッフ等、及び、事業の中で実際に行われることについて、明確かつ具体的に記載してください。]

***事業で取り上げる作品・演目に関わる詳細情報（作者、創作年、出演者、演奏家、スタッフ等）、及び、事業の中で実際に行われることについて、具体的に記載してください。**

***未決定・交渉中の場合は、その旨を付記してください。**

3. 事業の趣旨

(A) 事業の背景・展望	a. 本事業を計画するに至った経緯や背景
	*申請事業が申請者のこれまでの活動とどう関連するのかについても分かるように記載してください。 *事業の重要な事項（例えば、共催者、テーマ、共演者等）の選定に至る事情・理由についても記載してください。
	b. 本事業が当該分野又は芸術文化全体の中でもつ意味
	*本欄には、申請事業に関して、申請書の「活動分野」で選択した芸術分野における現状や歴史的観点から見てどのような意味をもつか、もしくは過去（先人）の芸術文化の蓄積をどのように意識しているのかを、できれば申請事業の独自性を踏まえて記載してください。
	c. 申請者が自身の活動において追求し、実現・到達したいと考えている将来の展望

	<p>*本欄には、現時点で申請者が長期的にどのような将来を見据え、どのような到達目標を掲げて活動しているのかを記載してください。記載内容は、抽象的なものと具体的なものの双方を含んでいても構いません。</p>
<p>(B) 事業の目的</p>	<p>[上記3.(A)c. の「将来の展望」を踏まえた、今回の申請事業の目的を記載してください。]</p> <p>*本欄には、<u>申請事業を通じて達成を目指していること</u>を記載してください。(部分的に上記3.(A)c. の記載内容と重なっていても構いません。)</p>
<p>4. <3.(B)事業の目的>を達成するために今回特に取り組むこと <small>[例えば、企画や創作上の試み、出演者の選定やプログラミングにおける工夫、情報発信・広報に関する独創的な手法、想定している観客層(対象者)の集客・来場のための工夫、外部との連携、数値目標、等]</small></p>	
<p>*本欄には、「<u>具体的な取り組みの内容</u>」について記載してください。</p>	
<p>5. 本事業の社会における意義 <small>[本事業が、当該分野以外に広い視点から社会に対して何をどのように問いかけ、どのような影響を及ぼしうるのかを記載してください。]</small></p>	
<p>*申請事業が(芸術上の成果・意義に限らず)広く社会的な見地からどのような影響力・波及力を及ぼす可能性があるのかを記載してください。</p>	
<p>6. 審査基準にあてはまる点 <small>[公募ガイドライン「4. 助成の基本方針」の「(1) 審査基準」に照らし、申請事業において特にあてはまる点について記載してください。(全ての審査基準について記載しなくても構いません。)]</small></p>	
<p>*全ての審査基準について記載しなくても構いません。</p> <p>*公募ガイドライン「4. 助成の基本方針」の審査基準に記載した「例えば……」の文例を参考に、申請者が考える審査基準別の要点を、具体的かつ簡潔に記載してください。</p>	

* 記載例：公演などの場合

*団体の正式名称を記載。
(代表者名・申請担当者名・申請事業名ではありません)

収支予算書〔団体申請・個人申請 共通〕
東京芸術文化創造発信助成 カテゴリ I 単年助成

申請者名：特定非営利活動法人〇〇〇

【収入】 (円)

【支出】 (円)

費目	① 内 訳	② 予算額	③ 合計額
入 場 料 ・ 参 加 費 収 入	【会場の収容人数】 〇〇劇場 ××人		
	【前売り】 一般 ……円×〇〇〇枚 学生席 ……円×〇〇〇枚	**** ****	
	【当日】 S席 ……円×〇〇〇枚 学生席 ……円×〇〇〇枚	**** ****	
	(有料入場見込みを◇◇%で積算) 入場見込み 有料 〇〇〇〇人(◇◇%) 無料 ××人		*****
	該当する費目の行数が足りない場合は行の追加・削除を行っても構いません。		
	【共催者負担金】		
	【他の助成金・補助金】 文化庁(申請中) 〇〇文化財団(決定) ××文化助成(申請予定)	**** **** ****	*****
	* 助成団体名の後ろに(申請中)、(申請予定)、(決定)等を付記		
	【寄付金・協賛金】		
	【プログラム・図録等販売収入】 パンフレット販売 ……円×〇〇部 アーカイブ冊子販売 ……円×〇〇部	**** ****	***** *****
【広告料・その他収入】 パンフレット広告料 ……円×〇〇件 ……円×〇〇件	**** ****	***** *****	
A 入場料・参加費収入・その他の収入 小計		*****	
B 当助成申請額		⑤ *****	
【団体申請】 「都内での芸術創造活動」:Eの2分の1の額まで、かつ、200万円以内 「国際的な芸術交流活動」:Eの2分の1の額まで、かつ、400万円以内 【個人申請】 Eの2分の1の額まで、かつ、50万円以内			
C 自己資金		⑥ *****	
【事業者の自己資金の財源・調達方法】 他の公演収入より充当			
* この枠がマイナスになる場合、助成金の申請はできません。			
D 収入合計★(A+B+C)		⑦ *****	

費目	① 内 訳	② 予算額	③ 合計額
1 作品借料			
2 美術・映像 作品制作費	⑧		
該当する費目の行数が足りない場合は行の追加・削除を行っても構いません。			
3 出演料	出演料 ……円×〇人×△回 ……円×〇人×△回 ……円×〇人×△回	**** **** ****	*****
4 楽器借料		****	*****
5 文芸費	脚本料 演出料 舞台監督料 舞台美術デザイン料 照明プラン料 企画制作費	**** **** **** **** **** ****	*****
6 会場費	会場使用料(〇〇劇場・△日間) 付帯設備使用料 稽古場借料 ……△△日間	**** **** ****	*****
7 舞台費	大道具費 小道具費 舞台スタッフ費 照明人件費 ……円×〇人×△回 音響人件費 ……円×〇人×△回 衣装費	**** **** **** **** **** ****	*****
8 設営費	会場設営・撤去人件費 ……円×〇人×△回	****	*****
9 運搬費	道具運搬費 ……円×〇回	****	*****
10 謝金	会場整理員謝金 ……円×〇人×△回 無料パンフレット原稿執筆謝金	**** ****	*****
11 旅費	交通費(◇◇～##往復) ……円×〇人×△回	****	*****
12 通信費	案内状送付料 ……円×〇〇通	****	*****
13 宣伝費	広告宣伝費(雑誌広告掲載) 特設サイト開設費 入場券販売手数料(登録料) " ……円×〇〇枚×△△%	**** **** **** ****	*****
14 印刷費	入場券印刷費 〇〇枚(@…円) チラシ印刷費 〇〇枚(@…円) チラシデザイン料 *デザイン料は宣伝費でも可 ポスターデザイン料 *デザイン料は宣伝費でも可	**** **** **** ****	*****
15 記録費	写真費 録画費 アーカイブ冊子原稿執筆謝金 アーカイブ冊子印刷費	**** **** **** ****	*****
E 助成対象経費 小計			*****
F 助成対象外経費	イベント保険料 有料パンフレット原稿執筆謝金 有料パンフレット印刷費	**** **** ****	*****
* 飲食に係る経費は記載できません。			
G 支出合計★(E+F)			⑩ *****

* D と G の数字を一致させてください。

(注) 飲食に係る経費等、収支予算書に記載できない経費があります(「助成対象外経費」にも記載不可)。詳細は、公募ガイドライン別表【助成対象経費一覧表】を参照してください。

* 記載例：展示やワークショップなどの場合

* 団体の正式名称を記載。
(代表者名・申請担当者名・申請事業名ではありません)

収支予算書〔団体申請・個人申請 共通〕
東京芸術文化創造発信助成 カテゴリ I 単年助成

申請者名：特定非営利活動法人〇〇〇

【収入】 (円)

【支出】 (円)

費目	① 内 訳	② 予算額	③ 合計額
入 場 料 ・ 参 加 費 収 入	入場料収入 ……円×〇〇〇枚	****	
	ワークショップ参加費 ……円×〇〇〇枚	****	
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; color: red;"> 該当する費目の行数が足りない場合は行の追加・削除を行っても構いません。 </div>			*****
そ の 他 の 収 入	〔共催者負担金〕 〇〇〇財団 〇〇〇事務局	**** ****	*****
	〔他の助成金・補助金〕 日本芸術文化振興会 「美術の創造普及活動」(申請予定) 〇〇文化財団(決定)	**** ****	*****
	* 助成団体名の後ろに(申請中)、 (申請予定)、(決定)等を付記		
	〔寄付金・協賛金〕 〇〇株式会社	****	*****
	〔プログラム・図録等販売収入〕 アーカイブ図録販売 ……円×〇〇部 図録販売 ……円×〇〇部 〔広告料・その他収入〕	**** ****	*****
A 入場料・参加費収入・その他の収入 小計			*****
B 当助成申請額	【団体申請】 「都内での芸術創造活動」:Eの2分の1の額まで、かつ、200万円以内 「国際的な芸術交流活動」:Eの2分の1の額まで、かつ、400万円以内 【個人申請】Eの2分の1の額まで、かつ、50万円以内		⑤ *****
C 自己資金	〔事業者の自己資金の財源・調達方法〕 他の事業収入より充当		⑥ *****
	* この枠がマイナスになる場合、助成金の申請はできません。		⑦ *****
D 収入合計★(A+B+C)			⑦ *****

費目	① 内 訳	② 予算額	③ 合計額	
助 成 対 象 経 費	1 作品借料 ……円×〇点 *保険加入が必須条件の場合のみ保険料を含む。	****	*****	
	2 アーティストフィー ……円×〇人 制作材料費 ……円×〇点 映像作品制作費	**** **** ****	*****	
	3 映像出演料 パフォーマンス出演料	**** ****	*****	
	4 音楽費	****	*****	
	5 キュレーターフィー コーディネーター料 企画制作費	**** **** ****	*****	
	6 会場費	****	*****	
	7 舞台費	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; color: red;"> 該当する費目の行数が足りない場合は行の追加・削除を行っても構いません。 </div>		
	8 設営費	展覧会場設営・撤去費 展覧会グラフィックス制作費 会場設営機材費	**** **** ****	*****
	9 運搬費	作品梱包・運搬費 *保険加入が必須条件の場合のみ保険料を含む。	****	*****
	10 謝金	ゲストスピーカー謝金 〇〇〇円×〇人×△回 翻訳謝金、原稿執筆謝金 ガイドスタッフ謝金 監視員謝金	**** **** **** ****	*****
	11 旅費	作家交通費(△△～##往復) ゲストスピーカー①交通費(◇◇～##往復) ゲストスピーカー②交通費(☆☆～##往復) ゲストスピーカー宿泊費・日当 ……円×〇人×△泊	**** **** **** ****	*****
	12 通信費	案内状送付料 ……円×〇〇通	****	*****
	13 宣伝費	特設ウェブサイト開設費・デザイン費 チラシデザイン料 *デザイン料は印刷費でまとめて可	**** ****	*****
	14 印刷費	チラシ印刷費 〇〇枚(@…円) 案内マップ印刷費	**** ****	*****
	15 記録費	写真費 録画費 アーカイブ図録・パンフレット原稿執筆謝金 アーカイブ図録・パンフレット印刷費	**** **** **** ****	*****
E 助成対象経費 小計			*****	
F 助成対象外経費	イベント保険料	****	*****	
	* 飲食に係る経費は記載できません。			
G 支出合計★(E+F)			⑩ *****	

* D と G の数字を一致させてください。

(注) 飲食に係る経費等、収支予算書に記載できない経費があります(「助成対象外経費」にも記載不可)。詳細は、公募ガイドライン別表【助成対象経費一覧表】を参照してください。

【収支予算書】記載の手引き

番号	項目	記載上の注意
①	内訳	○単価×数量（人数、日数、回数など）を具体的に記載してください。 ○内訳の記載は、「雑費」「その他」「…等」とせず、具体的に記載してください。
②	予算額	予算を円単位で記載してください。
③	合計額	費目ごとの合計額を円単位で記載してください。
④	〔共催者負担金〕 〔他の助成金・補助金〕 〔寄付金・協賛金〕	決定している場合は（決定）、申請中の場合は（申請中）、申請予定の場合は（申請予定）とし、申請額又は見込額を計上してください。
⑤	B 当助成申請額	申請額は必ず記載してください。 ○当助成申請額は、E「助成対象経費」の2分の1以内です。 ○当助成申請額の上限は、「都内での芸術創造活動」の場合は200万円、「国際的な芸術交流活動」の場合は400万円です。（詳しくは、公募ガイドラインP.7参照） *申請書類で助成申請額を記載する箇所は、この枠内と、提出書類「助成金交付申請書」の「助成申請額」の2か所です（両方に同一の額を記載してください）。
⑥	C事業者の自己資金の財源・調達方法	○収入欄のA「入場料・参加費収入・その他の収入 小計」とB「当助成申請額」との合計額とG「支出合計（⑩）」との差額を、C「自己資金」に記載して、D「収入合計（⑦）」とG「支出合計（⑩）」の金額を一致させてください。 ○自己資金の財源・調達方法は必ず記載してください。
⑦	D 収入合計	支出合計（⑩）と一致させてください。
⑧	E 助成対象経費 ※公募ガイドライン P.15参照	○支出経費は、事業を実施する際に必要な金額のみを計上してください。 ○経費には、（1）助成対象経費、（2）助成対象外経費、（3）収支予算書／決算書に記載できない経費、の3種類があります。収支予算書に記載できるのは（1）（2）のみです。公募ガイドラインの「別表 助成対象経費一覧表」を確認し、該当する経費を費目ごとに計上してください。
⑨	F 助成対象外経費 ※公募ガイドライン P.15参照	○公募ガイドラインの「別表 助成対象経費一覧表」を確認し、「（2）助成対象外経費」に該当する経費を計上してください。 ○公募ガイドラインの「別表 助成対象経費一覧表」の「（3）収支予算書／決算書に記載できない経費」は、「助成対象外経費」の欄にも記載できませんのでご注意ください。 *例えば、飲食に関わる経費は、「助成対象外経費」にも計上できません。
⑩	G 支出合計	収入合計（⑦）と一致させてください。

■ 申請団体基本情報の入力についての注意点

● 欄の追加・削除及び分割をしないでください。

※以下の枠内は文章量に応じて枠の幅が自動的に広がり改ページする設定になっているので、文字の大きさと行間は変更しないでください。

申請団体基本情報 ① 団体概要

フリガナ	トクテイヒエイリカツドウハウジン ○○○		フリガナ	○○○ ○○○		
団体名	特定非営利活動法人○○○ *「交付申請書」に記載した「申請団体名」と同一の正式名称を記載		団体名 英文表記	*海外での事業の場合のみ記載 *海外事業の場合に記載 *定款、規約等で欧文表記が規定されている場合は、その表記を記載		
フリガナ	リジチョウ		フリガナ	○○○ ○○○		
代表者役職名	理事長 *代表者の役職名を必ず記載		代表者氏名	○○○○		
団体 (本部事務所・本店) 所在地・連絡先	住所	郵便番号 *ハイフン不要 例: 1110000 *半角数字	1110000 *郵便番号にはハイフンを 入れない	電話 *半角数字 例: 03-0000-0000	03-0000-0000	
		区市町村名 ・番地	東京都○○区○○町*** *所在地は都内であること *「交付申請書」に記載した団体所在地と同一の住所を記載	ファクス *半角数字 例: 03-0000-0000	03-0000-0000	
		建物名・ 部屋番号	○○ビル***号室 *マンション名、ビル名、部屋番号、○○様方、までを省略せずに記載	メールアドレス	*****@*****.jp	
本部事務所確認書類 * 助成金交付が決定した場合、申請者の本部事務所や本店所在地が東京都内に存在することを証明する公的書類を提出していただきます。その際の提出書類名を記載してください。	法人	原則として「登記簿謄本」又は「履歴事項全部証明書」を提出していただきますが、それ以外の公的書類でも構いません。 *これらの書類を提出していただくのは助成金交付が決定した後です。				
	任意団体	申請時に提出する「団体規約」、「会則」等以外に、団体の所在地を示した書類。下記の例を参考に、提出予定の書類名を記載してください。 *これらの書類を提出していただくのは助成金交付が決定した後です。 ・「団体規約」、「会則」等に記載されている本部事務所の所在地が、団体の構成員の居住地と一致する場合は、当該構成員本人の住所に記載された証明書類(個人番号カード、個人番号通知カード、住民票又は住民票記載事項証明書、運転免許証、健康保険証、各種福祉手帳等) ・「団体規約」、「会則」等に記載されている本部事務所の所在地が、団体の構成員の居住地ではない場合は、賃貸契約書等、団体の本部事務所が当該の場所にあることを証明する書類				
ウェブサイトの URL、あるいは Facebook・Twitter などの SNS アカウント	http://*****.com					
団体の種類 * 法人の場合は法人の種類を記載。法人以外は「任意団体」と記載	団体設立年月 (西暦) *半角数字	年	月	法人設立年月 * 法人の場合のみ (西暦) *半角数字	年	月
組織	構成員名簿 *主な役職員等について記載		*主な構成員の氏名及び職務、団体構成員の人数、加入資格、会費、加入審査方法等を記載			
	(役職・職務名)	(氏名)	構成員の数: ○名			
	理事長	○○○○	*任意団体の場合は、少なくとも3名の構成員が必要です。			
	会計	○○○○	左記以外の主な構成員:			
	制作	○○○○	理事: ○○○○、○○○、○○○○、○○○○			
	監事	○○○○	○○○○ (劇作家・演出家)、○○○○ (俳優)、○○○○ (俳優)、○○○ (俳優)、○○○ (俳優)			
マネジメント責任者	○○○○	他俳優 ○名				
	*申請事業のマネジメント(制作運営)責任者名を記載。役職員と重複しても構いません。		加入条件: ○○○○○○○○○○○○○○○○○			
			総会の実施: 社員の過半数の出席により、年度末に実施			

目的・特色	団体の設立の目的や運営面・創作上の特色について、簡潔に記載してください。		
沿革・経歴	団体設立から現在に至るまでの沿革、代表作等について、簡潔に記載してください。 *年度の表記は全て西暦で記載		
団体の受賞歴			
フリガナ	〇〇〇〇〇〇	申請担当者連絡先	書類送付先住所 (注)
申請担当者名 (申請事業に関する全ての連絡窓口となる担当者) *申請担当者名と連絡先は必ず記載	〇〇〇〇	電話・携帯 *半角数字 例: 090-0000-0000	郵便番号 *ハイフン不要 例: 1110000 *半角数字 1110000 *郵便番号にはハイフンを入れない
		ファクス *半角数字 例: 03-0000-0000	都道府県・区市町村名・番地
		メールアドレス	建物名・部屋番号 *マンション名、ビル名、部屋番号、〇〇様方までを省略せずに記載

(注) 書類送付先住所は、団体所在地と異なる住所でも可能です。(書類送付先が団体所在地と同じ場合でも本欄に住所を記載してください。)
 採否通知等、助成関係書類の送付先になりますので、誤記や変更のないようにしてください。

申請団体基本情報 ② 創作・制作の核となる人物のプロフィール

***申請団体の構成員であるか否かに関わらず、申請活動の創作上の中核となる人物について記載してください。**

***本紙には1人分の枠が記載されていますが、それ以上の人数を記載する場合は、以下の枠全体を人数分コピーしてください。**

氏名	フリガナ	〇〇〇〇〇〇	フリガナ	〇〇〇〇〇〇
	本名	〇〇〇〇	芸名・屋号等 *ある場合は記載	〇〇〇〇 *芸名や屋号、ペンネーム等がある場合のみ記載
現職	当団体主宰者(代表者)、〇〇大学非常勤講師		生年月(西暦) *半角数字	**** 年 ** 月 ** 歳
専門分野・職能	劇作家・演出家			
主な経歴	年月 - 年月	教育機関・師事した人物・芸術団体所属歴・個人としての受賞歴・受給した奨学金等		
	****年**月～****年** *全て西暦で記載	〇〇大学芸術学部〇〇学科(〇〇専攻) 指導教授: 〇〇〇〇先生		
	****年**月～****年**	〇〇に入団 〇〇氏に師事		
	****年**月	劇団〇〇設立		
	****年**月	『〇〇〇〇』にて第**回〇〇賞新人賞候補となる		
	****年**月	『〇〇〇〇』にて第**回〇〇賞新人賞受賞		
	****年**月	〇〇国〇〇劇場の招聘により〇〇研修プログラムに参加		
主な芸術活動歴・創作制作上の特色・代表作				
〇〇				

※創作・制作の核となる人物が複数の場合は、上記の書式枠を必要人数分コピーして記載してください。

申請団体基本情報 ③ 団体の活動実績

活動実績 ① ※東京都内での活動実績をひとつ以上含めること

② * 2021年2月8日現在、団体設立日から1年以内で、東京都内での活動実績がない場合は、中核となる構成員（又は構成団体）による活動実績を記載すること

- (1) 事業の名称と、丸括弧で活動形態(公演、展示、等)を記載
- (2) 当該事業における「申請者の立場」を、次のアからエの中から選んで記載
 - ・申請者自身が事業を主催した場合は、右のどちらかを記載……………ア. 主催(国内) 又は イ. 主催(海外)
 - ・申請者が外部から依頼を受けて行った事業の場合は、右のどちらかを記載……………ウ. 依頼(国内) 又は エ. 依頼(海外)
- (3) (2)が「依頼」に該当する場合には、事業の主催者名又は依頼者名を、「主催者： 」、「依頼者： 」というかたちで記載
(2)が「主催」に該当する場合には、(3)は空欄。ただし共催者がいる場合は、「共催者： 」というかたちで共催者名を記載
- (4) 会場名とその所在地を記載 例：東京文化会館小ホール(東京都台東区) (5) 事業の実施回数と実施日数を記載
- (6) 事業の入場者又は参加者数を記載 (7) 事業の事業費を記載(単位は千円)

2018年度		2019年度		2020年度以降(申請時点まで) *申請時点までの実績を記載可	
(1) ③ International Music Festival in Berlin (公演)		(1) 「〇△□◇」 〇〇フェスティバル招聘公演		(1)	
(2) ④ 依頼 (海外)		(2) 依頼 (海外)		(2) 海外記載例	
(3) ⑤ 依頼者：〇△Foundation		(3) 主催者：〇〇〇〇		(3)	
(4) ⑥ Berlin Music Center (ベルリン/ドイツ)		(4) 〇〇劇場 (パリ/フランス)		(4)	
(5) ⑦ 3回/2日 (6) ⑧ 800名		(5) 2回/1日 (6) 400名		(5) 回/日 (6) 名	
(7) ⑨ 1,200 千円		(7) 6,000 千円		(7) 千円	
		(1)		(1) 〇△フェスティバル (公演)	
		(2)		(2) 主催 (国内)	
		(3)		(3) 国内記載例 共催者：公益財団法人〇〇〇〇	
		(4)		(4) 〇△ホール (東京都〇〇区)	
		(5) 回/日 (6) 名		(5) 10回/8日 (6) 3,500名	
		(7) 千円		(7) 15,000 千円	
(1)					
(2)					
(3)					
(4)					
(5) 回/日 (6) 名		(5) 回/日 (6) 名		(5) 回/日 (6) 名	
(7) 千円		(7) 千円		(7) 千円	

*申請書に元から掲載されている「記載例」を削除して、新たに記載していただいても構いません。その場合は、左端の「記載例」という文字を削除し、セルの背景色を白に、文字色を黒に変えてください。

*この表に記載する活動は各年度とも3件以内としてください。また、欄を追加・削除したり分割したりしないでください。
*過去3年間で、都内での活動が1回以上あれば要件を満たしています。

財務状況 ※本欄には、申請団体の各年度全体の決算を記載すること

* 新設の団体で、2021年2月8日現在、決算の実績がない場合は、本欄の記載は不要

2018年度		2019年度		2020年度以降(申請時点まで)	
総収入	⑩ 千円	総収入	千円	総収入	千円
総支出	⑪ 千円	総支出	千円	総支出	千円
損益	⑫ 千円	損益	千円	損益	千円
アーツカウンシル東京からの助成金	千円	アーツカウンシル東京からの助成金	千円	アーツカウンシル東京からの助成金	千円
⑬ その他の助成金・補助金・協賛金等 〔助成・協賛等団体の名称(助成プログラム名)〕		その他の助成金・補助金・協賛金等 〔助成・協賛等団体の名称(助成プログラム名)〕		その他の助成金・補助金・協賛金等 〔助成・協賛等団体の名称(助成プログラム名)〕	
〇〇〇財団(〇〇〇プログラム)	1,000 千円		千円		千円
〇〇〇〇基金(〇〇〇〇〇〇〇事業)	300 千円		千円		千円
	千円		千円		千円

【申請団体基本情報 ③団体の活動実績】 記載の手引き

①	東京都内での主催実績	<p>○過去3年間に申請する分野の東京都内での活動実績が1回以上あることが、申請者の要件です。</p> <p>○2021年2月8日現在、団体設立日から1年以内で、東京都内での活動実績がない場合は、中核となる構成員（又は構成団体）による同様の活動実績を記載してください。（必須）</p>
②	活動実績	<p>○全ての活動について記載する必要はありません。記載件数は各年度とも3件以内としてください。</p> <p>○欄内に書ききれない活動の場合は、別紙（書式自由）での提出も可能です。</p>
③	(1) 事業名（活動形態）	<p>○公演名等の事業名称の後ろに、丸括弧で活動形態（公演、展示、ワークショップ、レクチャー、シンポジウム、アーカイブ等）を付記してください。</p>
④	(2) 当該事業における「申請者の立場」	<p>主催（国内）：申請団体が主催して日本国内で実施した事業 主催（海外）：申請団体が主催して海外で実施した事業 <u>※海外フェスティバルへの自主参加（*）の場合は「主催（海外）」</u> <small>* フェスティバルのフリンジ枠等</small></p> <p>依頼（国内）：第三者から依頼を受けて日本国内で実施した事業 依頼（海外）：海外の劇場、フェスティバル等や、協働制作を行う海外の団体等から招聘されて、海外で実施した事業</p>
⑤	(3) 主催者・依頼者・共催者名	<p>○上の枠「(2) 申請者の立場」が「依頼」の場合は、事業の主催者名又は依頼者名を、「主催者：○○○○○」、「依頼者：○○○○○」というかたちで記載してください。</p> <p>○上の枠「(2) 申請者の立場」が「主催」の場合は、本欄は空欄で可。ただし共催者がいる場合は、「共催者：○○○○○」というかたちで共催者名を記載してください。</p>
⑥	(4) 会場名とその所在地	<p>○所在地は、国内の場合は都道府県・区市町村まで、海外の場合は国名・都市名まで記載してください。</p> <p>○東京都内と東京都以外の複数の場所で同一の事業を実施した場合は、まとめて記載しても構いません。</p>
⑦	(5) 事業の実施回数と実施日数	<p>○事業の実施回数及び実施日の合計数を記載してください。</p> <p>○東京都内と東京都以外の複数の場所で同一の事業を実施した場合は、まとめて記載しても構いません。</p>
⑧	(6) 事業の入場者又は参加者数	<p>○主催事業の場合、観客や参加者の総人数を記載してください。</p> <p>○依頼事業において観客や参加者の数が不明の場合は、おおよその数を記載するか空欄としてください。</p> <p>○東京都内と東京都以外の複数の場所で同一の事業を実施した場合は、まとめて記載しても構いません。</p>
⑨	(7) 事業費	<p>○事業費を、千円単位で記載してください。</p> <p>○依頼事業で事業の総額が分からない場合は、依頼された業務の金額を記載してください。</p>
⑩	総収入	<p>○当該年度について、申請団体の総収入を千円単位で記載してください。</p> <p>○直近年度の決算が確定していない場合は、見込額で結構です。</p>
⑪	総支出	<p>○当該年度について、申請団体の総支出を千円単位で記載してください。</p> <p>○直近年度の決算が確定していない場合は、見込額で結構です。</p>
⑫	損益	<p>○申請団体の決算上の当期損益額又は収支差額を記載してください。</p> <p>○直近年度の決算が確定していない場合は、見込額で結構です。</p>
⑬	その他の助成金・補助金・協賛金等	<p>○当該年度に受けたものについて、助成・協賛等団体の名称を記載してください。助成金や補助金の場合は、その助成プログラム名も記載してください。</p>

誓約書

公益財団法人 東京都歴史文化財団理事長 殿

東京芸術文化創造発信助成金交付要綱（単年助成）第9条の規定に基づく助成金等の交付の申請を行うに当たり、当該申請により助成金等の交付を受けようとする者（個人又は法人その他の団体にあつては、代表者、役員又は使用人その他の従業員若しくは構成員を含む）が東京都暴力団排除条例第2条第2号に規定する暴力団、同条第3号に規定する暴力団員又は同条第4号に規定する暴力団関係者（以下「暴力団員等」という）に該当せず、かつ将来にわたっても該当しないことをここに誓約いたします。

また、この誓約に違反又は相違があり、同要綱第27条及び第28条の規定により助成金等の交付の決定の取消しを受けた場合において、同要綱第29条の規定に基づき返還を命じられたときは、これに異議なく応じることを誓約いたします。

あわせて、理事長が必要と認めた場合には、暴力団員等であるか否かの確認のため、警視庁へ照会がなされることに同意いたします。

年 月 日

団体所在地

*「交付申請書」及び「申請団体基本情報 ①団体概要」に記載した団体所在地と同一の住所を記載してください。

申請団体名

*「交付申請書」及び「申請団体基本情報 ①団体概要」に記載した団体名と同一の正式名称を記載してください。

代表者名

*代表者名の記載は自著でお願いいたします。

印

*押印は「交付申請書」の印鑑と同じもの

- * 法人その他の団体にあつては、主たる事務所の所在地、名称及び代表者の氏名を記入すること。
- * この誓約書における「暴力団関係者」とは、以下の者をいう。
 - ・ 暴力団又は暴力団員が実質的に経営を支配する法人等に所属する者
 - ・ 暴力団員を雇用している者
 - ・ 暴力団又は暴力団員を不当に利用していると認められる者
 - ・ 暴力団の維持、運営に協力し、又は関与していると認められる者
 - ・ 暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められる者

提出書類の詳細 兼 チェックリスト

東京芸術文化創造発信助成 カテゴリー I 単年助成

申請者名：*「交付申請書」の申請団体名と同じ名称を記載してください。

- 提出書類の規格はA4判・片面印刷とし、ホチキス止めはしないでください(チラシ等、既存の印刷物は除く)。
- 書類番号「A(1)~(5)」と「E ■提出書類の詳細 兼 チェックリスト」は、アーツカウンシル東京のウェブサイトから東京芸術文化創造発信助成カテゴリー I 単年助成の指定の書式(団体申請用)をダウンロードしてください。
- 提出前に、「確認」欄をチェックしてください。 ■ 提出された書類及び資料は返却いたしませんので、必ず控えを取ってください。

書類番号	提出物と内容		作成上・提出上の注意点	確認
<p>■ 令和3(2021)年度 第1期 東京芸術文化創造発信助成 カテゴリー I 単年助成 申請書一式 (1)~(5)必須</p> <p>● 申請書は日本語で記載してください。</p>				
A	(1) 助成金交付申請書	必須	・Microsoft Word形式で作成すること ・代表印(法人・団体としての実印)を押印。任意団体の場合は代表者印を押印	<input type="checkbox"/>
	(2) 収支予算書	必須	・Microsoft Excel形式で作成すること ・【収入】の「自己資金」の金額がマイナスになる場合は、助成の申請はできません。	<input type="checkbox"/>
	(3) 申請団体基本情報 ① 団体概要、② 創作・制作の核となる人物のプロフィール、③ 団体の活動実績	必須	・Microsoft Word形式で作成すること ・「③ 団体の活動実績」には、申請する分野の東京都内での活動実績をひとつ以上含めること。なお、2021年2月8日現在、団体設立日から1年以内で、東京都内での活動実績がない場合は、中核となる構成員(又は構成団体)による同様の活動実績を記載すること	<input type="checkbox"/>
	(4) 上記(1)、(2)、(3)のデータ (CD-R等)	必須	・Microsoft Word及びExcel形式で、CD-R等の媒体で提出 ・PDFファイルは不可 ・必ず「印刷したもの」と「データ」の両方を提出すること	<input type="checkbox"/>
	(5) 暴力団等に該当しないことの「誓約書」	必須	・氏名の記載は自署をお願いいたします。 ・代表印又は代表者印を押印 [(1)の印鑑と同じもの]	<input type="checkbox"/>
<p>■ 申請者に関する資料 (6)~(8)必須 <書式は任意></p>				
B	(6) 定款又はこれに準ずる規約、会則等 <i>*今年度に設立した団体は、前年度の会計資料に代わるものとして下記の赤字の別途資料を提出してください。</i>	必須	・ガイドライン「3. 申請者の資格 (2)団体の要件」のうちイ、ウ、エが明記されていること ・団体の本部事務所や本店所在地の住所が東京都内の区市町村まで明記されていること ・団体における意思決定の手続き及び経理・監査等の会計組織について明記されていること	<input type="checkbox"/>
	(7) 前年度の会計資料 ※2021年2月8日現在、まだ決算の実績がない団体は、「(7)前年度の会計資料」に代わるものとして、構成員(又は構成団体)が、過去3年間に東京都内で実施した申請分野の事業の収支決算書を一件以上提出すること	必須	・法人格を有する団体の場合: 前年度(又は決算が終了した直近の年度)の財務諸表(貸借対照表、損益計算書等) ・任意団体の場合: 前年度(又は決算が終了した直近の年度)の収支決算書	<input type="checkbox"/>
	(8) これまでの活動実績を示す資料 <例>映像、音源、チラシ、プログラム・カタログ、新聞・雑誌・インターネット媒体での記事・批評・評論、団体概要資料等	必須	・申請内容の参考になる特に重要なものを選んで提出してください。 ・特に舞踊や映像の活動で申請する場合は、映像資料を提出してください。 ・映像や音源の資料を添付する場合は、一般的なプレイヤーやパソコンで再生できる形式(DVD、DVD-R、CD、CD-R等)で提出してください。また、動画共有サイトの該当ページのURLを別紙に記載し提出することも可能です。	<input type="checkbox"/>
<p>■ 申請事業に関する補足資料 <書式は任意></p>				
C	(9) 企画書等、事業内容に関連する資料	任意(右記ア)	「ア 都内での芸術創造活動」で申請する場合	<input type="checkbox"/>
		必須(右記イ)	「イ 国際的な芸術交流活動」で申請する場合	
<p>■ 「イ 国際的な芸術交流活動」で申請する場合の資料 (9)必須 + (10)~(14)必須 <書式は任意></p>				
D	(9) 企画書等、事業内容に関連する資料 <上の C (9) に同じ>	必須		<p>*予定段階のものでも構わないので、(9)から(14)までの資料を必ず提出してください。</p>
	(10) 海外受入側からの招聘状又は契約書/相手方からの同意書又は契約書	必須		
	(11) 海外受入側又は相手方の概要、アーティスト・プロフィール等	必須		
	(12) スケジュール (日本出発日又は日本到着日から帰国日まで)	必須	・(9)から(14)が英語以外の言語の場合は日本語訳を添付してください。	
	(13) 渡航/招聘メンバーリスト	必須		
	(14) 会場資料 (運営者、所在地、収容人数等が分かるもの)	必須	・(14)は海外で事業を実施する場合のみ提出	
E	■ 提出書類の詳細 兼 チェックリスト (本紙) 必須			<input type="checkbox"/>